

## 「第 3 回 小豆島ふるさと村全体整備基本計画策定委員会」における主な意見と対応方針（案）

| 項                         | ご意見   | 対応方針（案）   | 対応頁      |
|---------------------------|---|---|----------|
| 第 2 回委員会における主な意見と対応方針について | ① 地元の方に配慮すべきではあるが、宿泊施設は明確なターゲティング（富裕層を狙うなど）をするべきではないか。  | ⇒富裕層という表現ではターゲットが曖昧（幅が広く、定義が曖昧）となるため、インバウンドや関西圏・関東圏からのカップル又は夫婦という表現を使うこととする。  | 全体       |
|                           | ② 現状のふるさと荘交流センターが果たしている役割は別のゾーン若しくはエリア外の別施設に担ってもらっても考えるのが良い。  | ⇒現状のふるさと荘の機能（交流センターにおけるコンベンション機能）は、島内の別の施設に代替し、基本は再整備（解体撤去）の対象とする。  | 全体       |
|                           | ③ 周辺施設・環境を考えると富裕層ターゲットは難しい。   | ⇒①と同様。  | 全体       |
| 市場調査結果概要について              | ④ 今回サウンディングに参加し、参入希望を出している事業者が今後事業に参入する可能性が高いのか。  | ⇒事業に参入する可能性は高いと想定する。ただし、今回不参加の事業者が、今後新たに参入する可能性もまだ考えられる。  | —        |
|                           | ⑤ 事業スキームの方向性(案)について、パターン 2,3 は宿泊ゾーンの運営がエリア毎に分割されて中途半端になる恐れがある。全体マネジメントもパターン 1 の宿泊ゾーンを切り離す（独立性確保、ブランドの確立）形が良い。   | ⇒いただいたご意見も踏まえ、事業者公募に向けて再度事業者ヒアリング等を実施の上、決定したい。  | —        |
|                           | ⑥ 今回の事業は、一体的事業運営という点がポイントとなるため、分割発注は基本的には避けた方が良い。全体マネジメントを任せる事業者の資質や価値観、考え方も含めて評価することが重要。   | ⇒ご指摘の通り、本事業は一体的な運営がポイントになると認識している。事業者公募に向けて、参入を希望する事業者の意向も再度確認の上、決定したい。また、今後の検討ではガイドラインの設定等を進めることで、小豆島ふるさと村全体の一体的な整備を目指す。                               | —        |
|                           | ⑦ 「コンセプト・整備方針」において、ファミリー層・20代～30代・閑散期対策の学生層をターゲットに追加する提言がある一方、宿泊者については富裕層もターゲットに取り入れており、間口を少し広げすぎているのではないかと感じる。閑散期対策に学生をターゲットにするのは適切だと感じており、実際に 2～3 月に卒業旅行を企画している県内学生から相談を受けることもあるが、50 名～規模の団体を受け入れられる施設がほぼなく、これに対応できると大きな課題のひとつを解決できる。 | ⇒多様な機能を内包していることから、ターゲットについてはゾーン毎に設定している。したがって、間口を広げ過ぎていることはないと認識している。<br>⇒団体旅行（修学旅行含む。）等の受け入れについては、「小豆島観光ビジョン」に基づき、小豆島ふるさと村だけではなく島全体で教育旅行を受け入れることを検討する。 | P8, P27～ |
|                           | ⑧ 参入形態は共同実施が必要であると考えているが、共通理念の下で行うことが求められると考える。   | ⇒⑥と同様。  | —        |
| 島内学生ワークショップ結果概要について       | ⑨ 「学生意見とりまとめ」から、ポイントとなる概念を抽出して、カテゴリーに分類してはどうか。  | ⇒本業務の報告書においてカテゴリーに分類し、学生ニーズを整理する(委員会資料対象外)。   | 本業務報告書   |
|                           | ⑩ 音楽フェス、ライブイベントといった若者からの発想も非常に大事。小豆島中央高校生にとってここがサードプレイス（学校でも家でもない第三の居場所）になるとすごく良い。  | ⇒ご指摘の通り、非常に重要な意見であると認識している。計画の体験・滞在ゾーン内に高校生を含む島民が利用可能なサードプレイスとしての活用を想定することを追加する。  | P19      |
|                           | ⑪ 高校生が日常的に訪れるような施設（イベント利用ではなく、自習室・部活利用など）の検討も必要。  | ⇒⑩と同様。  | P19      |
|                           | ⑫ ソフト面において「島民割・学生割」についての記載があり、島内では「島民割」を実施している施設は幾つかあるものの、都会と比べた時に学生たちが遊び、交流することのできる「学生割」を実施している場所がほとんどないことに気付かされた。今後ふるさと村を島民にも足を運んでもらえる施設として愛着を醸成していくことを目指した際に、島民は観光客と同じ値段のサービスには足を遠ざける傾向があるので、「島民でよかった」と思えるようなサービス提供の仕方を工夫していただきたい。   | ⇒今後導入するソフト事業(サービス)の1つとして、本業務の報告書に整理する(委員会資料対象外)。  | 本業務報告書   |
|                           | ⑬ 継続的に本計画の進捗状況に合わせて、若者を交えたワークショップを開催し、情報収集、情報発信の有力なツールとして活用してはどうか。  | ⇒本事業に対し、若者が関わることは非常に重要な観点であると認識している。したがって、今後もワークショップ等の交流の場を継続的に開催することを検討する。   | —        |
| 全体整備基本計画(案)について           | ⑭ 小豆島観光の非繁忙期に集客が期待できるのは、「道の駅・海の駅ゾーン」の地元利用である。各ゾーンの市場細分化、ターゲット、ポジションは把握されていると思うが、今後の「特色」「演出」に期待する。   | ⇒整備水準の頁において、各ゾーンの特色を踏まえたそれぞれの観点で整理する。   | P32～     |
|                           | ⑮ コンセプトの「エコ・ヴィレッジ」がどのように実践されるのか、いまひとつ読み取れなかった。  | ⇒文化・伝統、産業や自然等をレイヤーで重ね、「持続可能性＝エコ・ヴィレッジ」を表現する概念図を作成し、コンセプトブックに反映する。   | P8       |
|                           | ⑯ P4：島全体の課題として、宿泊施設の減少や飲食店の不足がありますので、記載してはどうか。  | ⇒「周辺エリアの現状と課題」として宿泊施設の減少や飲食店の不足を追加する。   | P4       |
|                           | ⑰ P20：利用者数の設定については、体験・滞在ゾーンの目標値や、公園的に利用する近隣住民の目標値について、現状の利用者数から目標値に至った考え方がわかりにくい。   | ⇒根拠資料を別途、提示する(本業務の報告書／本委員会資料)。  | 本業務報告書   |
|                           | ⑱ P26：運動場、体育館、テニスコート、ファミリープールが突然無くなっているように見えるので、どこかに、他の場所での確保を考えている旨を記載してはどうか。  | ⇒同ページに、撤去する施設に係る機能代替について配慮する旨を記載する。   | P26      |

| 項   | ご意見   | 対応方針（案）  | 対応頁    |
|---|---|--|--------|
| 全体整備基本計画（案）・全体整備基本計画図（案）について  | ⑱ P27～30：宿泊エリア①の駐車場については、不便のないよう検討していただきたい。   | ⇒今後、事業者の意向等も踏まえて検討していく。  | —      |
|   | ⑳ P27～30：説明文の位置が図面で確認しやすいように表示する。   | ⇒ご指摘の内容を反映する。  | P27～30 |
|   | ㉑ P33：キャンプゾーンの整備基本方針の「新たな商品開発」が、何を指しているのかがわかりにくい。   | ⇒同ページに注釈として「※新たな商品開発とは、ふるさと村内における体験メニューとのセット販売や、フリーエリアにおける「食」や「夜」をテーマにしたイベント開催等、に向けたソフト面の取組みを含む商品の開発を想定」を追記する。   | P33    |
|   | ㉒ 宿泊ゾーンを3つに分けており、ヴィラと比較的安価な施設を併存させている。国内外の高級リゾートを多く見聞きしてきたが、これだけ近い距離でコンセプト・価格の大きく異なる施設を併存させているケースはあまり見たことがない。コテージは見えにくい場所にあるため、残しても良いと思うが、現状の「ふるさと荘」は宿泊施設としては残さないほうが良いのではないか。 | ⇒ふるさと荘は、基本は再整備（解体撤去）とする。ただし、今後の民間事業者との調整次第では、段階的な再整備（当初は現状活用し、その後解体撤去にて再整備を実施等）となることも想定。   | P27    |
|   | ㉓ 利用者数の設定については、何かしら根拠があるとわかりやすい。  | ⇒⑰と同様。   | 本業務報告書 |
|   | ㉔ 具体的な施設設計、ランドスケープについては、優先交渉事業者を設定するなどして、話し合いをしながらプレスト会議をしていくほうが良い。   | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |
|   | ㉕ エントランス部分については、遊具施設を入れる、ロングベンチを置くなど、滞在時間を増やす工夫（例：グリーンまるがめ等）を事業者と検討する余地を残すほうが良い。  | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |
|   | ㉖ 公園的要素は、公共が資金を準備して、民間運営が良い。事業者任せすぎると問題なので、公共が手綱をにぎれる状況（町と事業者による専門委員会の設置、社外取締役の設置など）を設計から運営までつくっておく必要がある。   | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |
|   | ㉗ P20の体験・滞在ゾーンの利用者数の想定が60,000人というのが、他のゾーンと比べて人数の増加率が高いので、その根拠を知りたい。（公園的空間として利用する近隣住民89,000人の根拠も知りたいが、60,000人は経済効果も大きいと、より知りたい。）   | ⇒⑰と同様。   | 本業務報告書 |
|   | ㉘ 宿泊ゾーンのヴィラ形式の宿泊棟については、他委員の方の意見も伺いながらどのような形式が最も「小豆島ふるさと村」にあっているのか、参入事業者の意向を含め慎重に進めていくのが良いと感じた。  | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |
|   | ㉙ ワークショップの意見をもっと計画に盛り込んだ形にしてもらいたい。  | ⇒ワークショップの意見のうち、ハード面ではジップラインなどを反映。ソフト面は運営の課題として整理する。ワークショップの意見は、コンセプトブックの参考資料内にも掲載する。   | P24    |
|   | ㉚ コンセプトに「持続可能なしまづくり」を追加するにあたっては、今どこも取り上げているコンセプトであり、小豆島独自の持続可能性が必要（2年連続で選出、寒霞渓、オリーブに次ぐストーリー、連携等）。他の観光地との差別化を図ってほしい。   | ⇒P8で「持続可能なしまづくり」に関する小豆島の独自性（「小豆島の持続可能性」として）を整理の上、計画を作成する。  | P8・全体  |
|   | その他   | ㉛ 今回コンセプト案に「～持続可能なしまづくり～」の一文が追加されたが、実際持続可能な観光先進地として他地域の教育機関から島の取り組みに関する質問や教育旅行の相談も増えている。今後、教育旅行を積極的に受け入れるという方向に本格的に舵を切った時、団体が泊まれる低価格の宿が島内を見渡してもほとんどないことが懸念される。宿がなければ教育旅行を誘致することもできず、せっかく興味を持ってもらえた学校に来てもらうことが難しくなる。島の自然・文化・伝統・SDGs・持続可能な観光とは何かについて一から学び、体験し、可能であれば島民と交流し語り合えるような場をふるさと村が提供できれば良いと期待している。 | ⇒⑰と同様。 |
| ㉜ どこにでもある施設ではなく、そこでしか体験できない施設であってほしい。多少不便でも良いのではないかな。   |   | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |
| ㉝ SDGsをコンセプトに追加したのであれば、いろいろな実験的な試みを参入事業者との協力、国の補助金などを活用して新しい取り組みを期待する。（自動運転、マイクロ発電、脱炭素の取り組み等） |   | ⇒いただいたご意見を踏まえ、今後官民連携事業を進める中で、民間事業者の意向等も踏まえ検討する。  | —      |